



のびのび若っ子

若葉のようにやわらかい心で

校長 池田 千穂

令和4年度が始まりました。お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。今年度は44人の新1年生を迎え、全校391人の子ども達でスタートいたしました。教職員も私を含め、着任者と共に、気持ちも新たに若葉台小学校の教育活動に全力で取り組んでまいります。

若葉台には本当に美しい桜並木があります。今年も桜並木が卒業生を見送り、新入生を迎えたことと思います。私は初任校が統合前の霧が丘第二小でしたので、当時も通勤で若葉台の桜並木を通っていました。この桜並木にはずいぶんと励まされ、癒されました。何十年ぶりに、桜並木を通り、時の流れを感じると同時に大変懐かしい気持ちになりました。花が散って、若葉の頃もまさに「若葉台」の名前通りに美しく、淡い緑の葉が日差しを受けて、きらきらと輝いていました。その風景も私を穏やかに優しい気持ちにしてくれたことを思い出しました。



その若葉は葉をぐんぐん大きく広げて緑も深まり、夏にはすっかりと姿を変えます。相田みつをさんの著作に「やわらかいところ」という詩があります。その一節です。
『木の芽が伸びるのは やわらかいから
若葉が広がるのは やわらかいから
かすかな風にも 竹がそよぐのは 竹がやわらかいから』

まさに子ども達のことです。「やわらかい」というのは柔軟に思考したり、自分との違いを受け止めたり、新しいことに適応する力ではないでしょうか。本校の教育目標である「自他ともに大切に作る心」と「意欲的な学びの芽」それが、子ども達は、やわらかい時です。子ども達の心や頭が「芽や若葉や竹」のようにやわらかいから、「伸び、広がり、そよぎ」成長していくことができる。とても大切な時なのだと思います。そしてこの詩の後半に「歳をとっても、やわらかいところを持ちたいものです」と詠っています。私たちも「やわらかいところ」で、子ども達のやわらかい心に寄り添い、支援し、様々な可能性を伸ばしていきたいと思えます。

本校は保護者の方々をはじめ地域の方々若っ子達のために「地域力」を発揮してご尽力くださっていると聞いております。私たち職員も「学校力」を高めて、皆様と共に若っ子を育てていきたいと思えます。まだまだ、教育現場は新型コロナウイルス感染症の影響を受けることが予想されます。皆様方にご心配やご迷惑また多大なご協力をお願いすることがあると思えます。私たち職員一同、子ども達のために最善を尽くしてまいりますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切に作る心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』